

「榮久庵憲司の世界展」開催記念展示

広島が生んだ芸術家たち

えん つば かつ ぞう やま じ しょう わ だか せつ じ

圓鍔勝三・山路商・和高節二

Commemorate the Exhibition The World of Kenji Ekuan:

Hiroshima Produced Artists
Katsuzo Entsuba, Sho Yamaji, Setsuji Wadaka



山路商 <T型定規のある静物> 1932年
Sho Yamaji, Still Life with a T-shaped Ruler 1932



和高節二 <田植時> 1929年
Setsuji Wadaka, Rice-planting Season 1929



圓鍔勝三 <面> 1965年
Katsuzo Entsuba, Mask 1965

September 26(Fri) - January 12(Mon/Holiday)
平成26年 (2014) **9.26** 金 | — | 平成27年 (2015) **1.12** 月 祝
9:00-17:00 11/7までの金曜日は20:00まで、それ以降の金曜日は19:00まで閉館 入館は開館の30分前まで

※11/7までの金曜日は20:00まで、それ以降の金曜日は19:00まで閉館
※入館は閉館の30分前まで
休館日: 月曜日(特別展会期中、祝日及び振替休日は開館)
入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円
高校生以下無料
縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円
※()内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m
- 広島駅新幹線口から、ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス/9:00~17:30の間、毎時0分30分発。)
「広島県立美術館前」下車(白島線沿い)

名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜
広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum
〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL(082)221-6246
http://www.hpam.jp/ FAX(082)223-1444

【榮久庵憲司の世界展開催記念展示 広島が生んだ芸術家たち—圓鏑勝三・山路商・和高節二】

郷土—それは芸術家たちの心の支えとなり、時に作品にも大きな影響を与えます。

日本を代表する彫刻家・圓鏑勝三、広島画壇の前衛として知られる洋画家・山路商、郷里で描き続けた日本画家・和高節二。広島ゆかりの3人の芸術家に注目することで、広島が生んだ多彩な芸術世界を紹介します。

【内容紹介】

○彫刻展示スペース 圓鏑勝三の彫刻

圓鏑勝三(えんつば かつぞう/明治38・1905—平成15・2003)は広島県御調町(現・尾道市)出身の彫刻家。木彫を中心にしながらも、ブロンズ、テラコッタなど様々な素材を自在に扱い、バラエティに富んだ作品で広く知られます。昭和63(1988)年には文化勲章を受章し、翌年広島県名誉県民となりました。

このコーナーでは、アフリカ彫刻を思わせる独特のフォルムと造形的なおもしろさが魅力の《面》や、宇宙という雄大なテーマをもって制作した《星羅》等を展示します。ストーリー性を感じさせる、ユニークで個性豊かな圓鏑ワールドをお楽しみください。



圓鏑 勝三《星羅》
1960(昭和35)年

○第1室 広島の前衛 山路商

今年、広島美術史に重要な足跡を残した画家・山路商(やまじ しょう/1903・明治36—1944・昭和19)の没後70年にあたります。山路は、昭和戦前期に前衛美術運動の旗手として活躍。鋭い感性と類まれな表現力に支えられた豊かな造形性や先進性は、新しい芸術を志す同時代の作家に強い影響を与えました。

このコーナーでは、近年寄贈いただいた稀少な新収蔵品も含め、山路と交友しつつ独創的な活躍を見せた同時代の画家の作品も併せて展示。苦難の時代にも絶えることのなかった彼らの表現意欲と独自の画業を模索する探究心を、それぞれの作品から感じていただけることと思います。



山路 商《犬とかたつむり》
1937(昭和12)年

○第2室 土の画家 和高節二

その生涯の大部分を郷里に身を置いて活躍を続けた孤高の日本画家・和高節二(わだか せつじ/1898・明治31—1990・平成2年)は、現在の広島県安芸高田市向原町に生まれました。

このコーナーでは、《母子》や《乳のみ児》など、絵と農業の両立という「半農半画」の生活スタイルが軌道に乗り始めた画業初期の作品から、《村の子供》のように背景の処理によって人物を強調するといった、新たな試みが見られる作品などを展示します。いずれの作品も「土の画家」としてその生き方を貫いた和らしい魅力にあふれるものばかりです。どうぞごゆっくりとご鑑賞ください。



和高節二《村の子供》
1933(昭和8)年

【関連イベント】

※本ページは「タブロー&クラフト―秘密のヴィジョン」プレスリリースにおいても同様です。
※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが、HPAMコレクション展についてわかりやすく解説します。

日 時:平日14:00~/土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場 所:2階展示室

参加料:無料 ※要入館券(高校生以下無料)、事前申込不要

※12/6 14:00の回、12/26-1/4は休み

※毎月第4土曜日11:00～は、小学校及び特別支援学校小学部第5-6学年の児童と保護者の皆様を主な対象に、“親子ギャラリートーク”として実施します。(30分～1時間程度)

学芸員リレートーク

日 時:9月28日(日) 10:30～

場 所:2階展示室(1室、2室、3室、4室)

講 師:各担当学芸員

※要入館券(高校生以下無料)、事前申込不要

※90分程度を予定

美術講座「圓錐勝三の彫刻」

日 時:12月14日(日) 13:30～14:30

場 所:地下講堂

講 師:担当学芸員

※事前申込不要、無料

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 石川哲子、藤崎 綾、角田 新、山下寿水、宮本真希子

事業推進課 山本恵子

※本ページは「タブロー&クラフト—秘密のヴィジョン」プレスリリースにおいても同様です。

【HPAM(エイチパム)コレクション展】

広島県立美術館では、これまで「所蔵作品展」として開催してきた当館の所蔵作品展示について見直しを行い、平成26年4月から「HPAM(エイチパム)コレクション」展として一新しました。(HPAM(エイチパム)とは、広島県立美術館の英語表記「Hiroshima Prefectural Art Museum」の略称です。)



広島県立美術館の公式ロゴから新たに「HPAM(エイチパム)コレクション」展のロゴが誕生しました。

【平成26年度運営目標】

『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる

当館の平成26年度の運営目標を「『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる」として、お客様の視点に立って、当館のコレクションの美を楽しく、わかりやすくお伝えします。

県民の皆様にも、当館所蔵のコレクションの宝を再発見し、これまで以上に感動していただける展覧会をお届けするため様々な取り組みを行います。

【取組内容】

生まれ変わった「HPAM(エイチパム)コレクション展」で、
私たちは「美」の楽しさをやさしい気持ちで伝えるために様々なことにチャレンジします。

- 展覧会の企画意図や展示作品等、内容がわかる鑑賞ガイドの作成・配付を行います。
- 学芸員によるキュレーターズトークやワークショップなど、より充実したイベントをお届けします
- ギャラリーガイドを毎日開催！作品をより深く知っていただくために、当館では、毎日、広島県立美術館友の会によるギャラリーガイドを行います。
(平日:14:00～, 土・日・祝日は11:00及び14:00～※休館日を除く)
- 「学芸員のお奨めの一点」をホームページ及びプレスリリースにて随時御紹介！
- 会場内での携帯電話やスマートフォン、iPad等のタブレット端末機による検索を自由に行っていただけます。気になる作品情報は、その場でチェック！
- 作品との写真撮影もOK！お気に入りの作品の前で記念撮影等もしていただけます。
※一部作品に限ります。



このマークが掲示されている作品は撮影可能です。

タブロー & クラフト 秘密のヴィジョン

Tableau & Craft – Secret Vision



テケ族・トルクメン人《護符入れ(トウマル)》1916/17年
Take Tribe the Turkmen, Amulet holder (tumar) 1916/17



アレクサンダー・カーノルト《静物》1925年
Alexander Kanoldt, Still Life 1925

September 18(Thu)–January 12(Mon/Holiday)

平成26年(2014) **9.18** 木 — 平成27年(2015) **1.12** 月 祝

9:00–17:00 11/7までの金曜日は20:00まで、それ以降の金曜日は19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで

※11/7までの金曜日は20:00まで、それ以降の金曜日は19:00まで開館

※入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日(特別展会期中、祝日及び振替休日は開館)

入館料：一般 510(410)円、大学生 310(250)円

高校生以下無料

縮景園との共通券：一般 610円、大学生350円

※()内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m
- 広島駅新幹線口から、ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス/9:00~17:30の間、毎時0分30分発。)
「広島県立美術館前」下車(白島線沿い)



名勝「縮景園」とともに歩む アートの社
広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL (082) 221-6246

http://www.hpam.jp/

FAX (082) 223-1444

【「タブロー&クラフトー秘密のヴィジョン」について】

絵画と工芸という二つのジャンルに注目！まずは静物画に着目しながら、タブロー（絵画）とテーブル（机）との隠された関係を読み解きます。そして、多彩な素材と技法による工芸作品の意味・役割・表情などの対比の中から、美術のヴィジョンを再考します。

【内容紹介】

○第3室 タブローと静物

持ち運び可能な絵画（タブロー）には、ときに親しい人たちの間で楽しむために私的な情景が画題として描かれてきたという側面があります。その中でも静物画というジャンルは、画題として食器や食材、花、日用品など、しばしば身近にある品々が選ばれ、近現代においては、とりわけプライベートな性質を強く示しています。

このコーナーでは、静物画というジャンルを通して、画家たちが対象をどのように見つめていたのか探ります。

静物とテーブル

一方で、静物画の多くがタブロー（Tableau）と語源を同じくするテーブル（Table）の上に描かれています。そもそもテーブルという単語は、タイムテーブル（時刻表）という言葉に見られるように、「一覧表」、「索引」といった意味を備えています。少し意味を拡張すれば、静物とはテーブル上のモチーフによって、その空間に住まう人たちの性質を示すものと言えるかもしれません。

このコーナーでは、南薫造《坐せる女》やジョージ・グロッセ《群盗》などテーブルとともに描かれたモチーフから語られるメッセージを読み解きます。



アレクサンダー・カーノルト
《静物》1925年

○第4室 工芸の多彩な魅力を比べて見る

「用」と「美」の間を振れてきた工芸の近現代史。その過程で、伝統を尊崇するとともに反発し、変革と自己表現への強い欲求から「用」を捨てて純粹美術の領域に分け入り、そこでまた、工芸・工芸作家とは何かというアイデンティティーに苦しみ…。このような相克を繰り返すことによって、日本の工芸は磨かれ、より多彩に魅力を増してきたとも言えます。

工芸制作の根っこを成す、このような価値観の振幅に加え、時代・地域・風土・美意識の相違、素材と技法の相乗が、工芸の表現を極めて多彩にしています。このコーナーでは、当館が誇るアジアの工芸作品を交え、工芸作品の多彩な魅力を9つの視点で「比べて見る」ことにより味わってみたいと思います。



板谷波山《青磁鳳耳花瓶》

※関連イベント、媒体掲載用の画像提供について、HPAMコレクションについては、同時期発行の「広島が生んだ芸術家たち—圓鋸勝三・山路商・和高節二」をご参照ください。